MUSASHINO for TOMORROW

Vol.145
July 2024

ポストコロナ時代の音楽動向 高山直也｜音楽評論家・作曲家

附属高等学校 2027年4月東京都へ移転

大学特別オペラ公演『ヘルプ！ ヘルプ！ 宇宙人が襲ってきた！』開催

学生レジデンス「Flügel」誕生

ごあいさつ

武蔵野音楽大学学長
武蔵野音楽大学附属高等学校校長
福井 直昭

梅雨明け待ち遠しい向暑のみぎり、皆様におかれましてはご健勝のこととお慶び申し上げます。2024年度の幕開けから三ヵ月が過ぎ、学内はようやく新年度の賑わいが落ち着いてきたところです。様々な困難に直面するこの時代に、音楽家の道を志し、本学に入学を果たした新入生の皆様、そして日々音楽を探求し、努力を重ね続ける在学生・在校生の皆様に対し敬意を表します。並びに、支えてこられたご家族の皆様、大学運営に対し多大なご支援・ご協力をくださったすべての方に、心より感謝申し上げます。

本年4月には、キャンパスから徒歩2分というアクセス抜群の地に、女子学生・生徒専用の学生レジデンス「Flügel（フリューゲル）」が誕生いたしました（設計・施工：株式会社長谷工コーポレーション）。詳細につきまして本誌11, 12頁をご覧ください。また同月末には、本学主催特別オペラ公演がブラームスホールにて３日間にわたり開催され、全日満席、大盛況のうちに終演いたしました。本誌表紙を含め、舞台写真・出演者コメント等を後掲しておりますので、当日の華やかな雰囲気を感じていただければ幸いです。

また来る2029年、武蔵野音楽学園は創立100周年を迎えます。これを大きな契機としてとらえ、将来を見据えた上での更なる教育活動の充実のために、2027年４月、附属高等学校を埼玉県入間市から東京都練馬区へ移転いたします（東京都認可申請手続き中 / 学校設置計画承認済）。附属高校新校舎は「気づきと創造力をもたらす空間」をコンセプトに、大学より徒歩３分のむらさき寮跡地に建設する予定です。未来を感じさせるデザインの新校舎は、そこに集う生徒たちによって更なる輝きを増していくことでしょう。詳細は本誌５，６頁と併せて、大学・高校ウェブサイトもご覧いただければと存じます。

以上のような取り組みのほか、教職員一同、建学の精神を堅持し、教育の方針に従って、学生・生徒諸君が学修目的に真摯に取り組むことができるよう、教育環境の充実に更なる努力を傾注して参る所存です。今年度も、皆様のご健勝とご活躍を心よりお祈り申し上げると共に、より一層のご支援、ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

ポストコロナ時代の音楽動向

高山直也｜音楽評論家・作曲家

2023年11月24日東京オペラシティ コンサートホール

パンデミック以降の社会が正常化しつつある今、音楽界もまた、従来とは異なる新たな動きが起きている。長く続いたコロナ禍では、感染防止のためライブコンサートなどのイベントはいうに及ばず、その影響は甚大で音楽家や音楽関係者は大きな困難に直面した。しかし、この危機は私たちに新たな音楽鑑賞スタイルを生み出す契機ともなった。とりわけ、コロナ禍で加速したインターネットによるオンライン配信やＳＮＳ（ソーシャルネットワーキングサービス）をつうじた情報共有は、音楽の楽しみ方などに変化をもたらしている。まずライブコンサートにおける昨年から今年にかけての国内クラシックシーンから振り返ってみたい。

高山直也 Naoya Takayama

音楽評論家・作曲家。東京生まれ。武蔵野音楽大学音楽学部器楽学科卒業。執筆活動をつうじてクラシック音楽の振興に努め、長年にわたり『音楽の友』の演奏会批評を担当。新聞への寄稿、WEB記事、CD・DVD ライナーノート、演奏会プログラムノート、アーティストへのインタビューも数多い。一方、幅広い創作活動を行ない、ビクターエンタテインメントなどのレコーディングや企画制作に携わるほか、国民体育大会の式典音楽制作も多数手がける。1981 年度「笹川賞」作曲コンクール第1位受賞。共著:『モーツァルト“天才”の素顔とその音楽の魅力』『生誕 250 年 ベートーヴェンの交響曲・協奏曲』（ONTOMO MOOK）など。

2023/2024シーズンのクラシックシーン

2023年では、秋冬にかけて著名なオーケストラが相次いで来日公演を果たしたことが際立つ。来日順にロイヤル・コンセルトヘボウ管弦楽団（指揮：ファビオ・ルイージ）、ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団（指揮：トゥガン・ソヒエフ）、ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団（指揮：キリル・ペトレンコ）の名門のみならず、10月から11月にかけて世界の代表的なオーケストラが次々と日本各地のホールで公演を行ない、さながら海外オーケストラの祭典ともいえる来日ラッシュとなった。これはコロナ禍で延期されていた公演が重なったことが大きく、ようやく日常が戻ってきたと実感させた。今年はやや落ち着くものの、5年ぶりに来日する英国ロイヤル・オペラ・ハウスの引っ越し公演（本稿執筆時点）など、2024年もまた賑わいをみせる。加えてブルックナーやスメタナのメモリアルイヤーという節目は、偉大な作曲家の業績をあらためて噛みしめる機会となるに違いない。さらに今年はプッチーニの没後100年だ。

音楽、バレエ、演劇などの集客を行う国内のライブエンタテインメント市場全体に目を向けると、2022年の同市場規模は2019年の約9割まで回復し、2023年の予測値は2000年以降、最高となる見込みとの報道（2023年12月）があった。このことからコロナ禍で抑えられていた大規模イベントが復活し、その反動で回復したといえる。とはいえ、安心材料ばかりでなく小規模公演回復の遅れ、今

昨年7月、パンデミックを経て4年ぶりの実施となった本学ウィンドアンサンブル演奏旅行

後、会場稼働における働き手不足や演奏施設の相次ぐ改修など持続的な成長への懸念も。そして、円安などの影響を受けた来日オペラの引っ越し公演が経済的に難しくなっている。そうしたなか、オペラの演奏会形式での上演は増加傾向。また、国内オーケストラの動きでは、昨年４月から今年１月にかけて文化庁の「アートキャラバン２」（統括団体による文化芸術需要回復・地域活性化事業）によって行われた「オーケストラ・キャラバン」。これは2022年度（令和４年度）から継続して政令指定都市以外を含めた全国各地で開催され、文化芸術活動に向けての需要喚起や活性化を図るという意味で支えとなった。

音楽鑑賞スタイルの多様化

クラシック音楽の大きな魅力は、ライブコンサートならではの臨場感に他ならない。時に聴衆がつくり出す空気感は演奏家の心理などを左右し、その相乗効果による大きな感動は何ものにも代え難い。しかし、コロナ禍においては行動制限により演奏家が一堂に会して演奏をすることや、会場の聴衆と感動を共有することは困難であった。

そうしたなか、オンライン配信や音楽ストリーミングサービスの普及が加速した。私自身、ストリーミングを利用しているが、時間や場所を選ばず、数多くの過去の貴重な演奏から最新の演奏まで聴けるようになったことは、その利便性とともに広範にわたる音楽情報を取得できるという意味で不足はない。また、オンライン配信ライブのコンサートも浸透し、オンライン動画共有プラットフォームを介した演奏動画、音楽に関わるさまざまなコンテンツの鑑賞など多様となった。そして、これらを活用するアーティストは、ライブコンサートへの入り口として新たなファン層を獲得しつつあり、彼らと聴衆の関係が少しずつ変化しているといえるだろう。さらにコロナ禍のさなかに開催された「第18回ショパン国際ピアノコンクール」をはじめ、著名な国際コンクールはオンライン配信で観戦するというスタイルも一般化。昨年、会場取材した「第13回 国際オーボエコンクール・東京」では演奏動画が公開され（現在は終了）、各ラウンドでのコンテスタントの真剣な息づかいを思い返した。これらはクラシック音楽をより多くの人に届ける新たな手段と受容のあり方を示している。

こうしたオンライン配信や音楽ストリーミングサービスへの移行がみられる一方、ＣＤなどのフィジカルが健闘する日本。アーティストがコンサート会場でＣＤを販売することや、パッケージとしての名刺代わりといえるプロモーション的価値のほか、音楽家への収益分配という意味でも根強い。また、アメリカを中心にＬＰなどのアナログレコードの人気が再燃。デジタル音源とは異なる温もりのある音質が好まれることやコレクションアイテムとしての価値など、アナログとデジタルを時と場合に応じて使い分ける新しい鑑賞スタイルが生まれたことも見過ごせないだろう。とはいえ、聴覚と視覚でしか伝わらないこれらの鑑賞スタイルは、コロナ禍を経て、あらためてライブコンサートの魅力を再認識する機会となったのではないだろうか。

ＳＮＳの活用と セルフプロデュースの必要性

近年、音楽界全体のみならずアーティストらによるＳＮＳの活用は目を引く動きのひとつといえ、コロナ禍を経て、インターネットやソーシャルメディアをつうじた情報発信力が、より一層重要性を増している。昨年11月、ウィーン・

フィルハーモニー管弦楽団が来日した際、指揮者のトゥガン・ソヒエフにインタビューする機会があったが、ソリストとして同行したピアニストのラン・ランについて、インフルエンサー（人々に影響力のある人物）としても期待している、と話していたことを思い出す。2009年、ラン・ランは米誌タイムの「世界で最も影響力のある100人」に選ばれたのに続き、翌2010年には世界経済フォーラムから「ヤング・グローバル・リーダー250人」のひとりに選出されており、そもそもアーティストのなかでも広範な影響力を誇る。その彼がさらにＳＮＳを活用し、世界中に数多くのフォロワーをもつとともにファンとの交流を促進しながら、自身の演奏活動やコンサート情報を発信しているのだ。世界的指揮者もインフルエンサーとしての演奏家の発

本学SNS

信力や影響力の大きさに注目している時代といえる。

国内のアーティストも若手世代を中心にＳＮＳを積極的に活用し、プロモーション活動の一環として自身の音楽活動を発信している。彼らにとってはセルフプロデュースのひとつであり、自身をアッピールするブランディングにもつながっている。セルフプロデュースやブランディングでは、ありふれたものは記憶に残りづらく、記憶に残らなければリピートの可能性が低くなるとされる。また、情報発信という意味でネットリテラシーを踏まえつつ、聴衆層との直接的なつながりを維持するための定期的な投稿も必要となる。アーティストが自身の芸術性の追求や世界観の構築を実践することはいうまでもないが、ＩＣＴ（情報通信技術）の進歩が著しい時代、自身の個性や強みをより明確化し、ターゲットとなる聴衆層に効率よく伝えることが求められるだろう。

人と人をつなぐ
音楽による地域の活性化

教育界の動きでは、学校の部活動改革として地域の連携や地域クラブ活動移行に向けた取り組みが行われている。その内容は、地域の実情に応じた持続可能で多様な環境の整備、多様な体験機会の確保、少子化のなかでも、将来にわたり生徒たちがスポーツ・文化芸術活動に継続して親しむことができる機会の確保、そして、学校の働き方改革による教育の質的向上とある。とはいえ、地域や学校により状況が異なることなど、ひと括りにできない面もあり、不安が生じているのが現状だ。音楽関連では地域の指導者や会場の確保などさまざまな課題を抱えているが、とりわけ、地域移行後の指導者への謝礼や会場使用料、保険料などの費用は保護者負担となるほか、不可欠な楽器についても危惧される。さらに機会保障でいえば、経済的な理由で生徒たちが音楽に親しむ機会を失うことがあってはならない。学校の部活動は多くの生徒たちにとって音楽や楽器に

触れるよいきっかけである。音楽活動の価値を地域で共有し、地域全体で支える新たな環境構築ではあるが、今後予想される音楽人口減少を抑制するためにも、よりよい方向へと向かうように注視したい。

芸術普及活動におけるアウトリーチ。芸術に関心をもたせることを目的とし、地域社会での音楽活動や学校への出張演奏など教育普及活動の側面も併せもつ。この活動は以前から行われているが、今後の少子化問題を考えると、幼児期・学童期から早期に音楽に触れる機会を増やすことは、音楽への興味関心をより高める、という意味で重要性が増すだろう。また、音楽療法的な活動や福祉施設での演奏などは、社会課題解決への貢献となるに違いない。将来的に前述の地域クラブ活動とアウトリーチが連携した音楽イベントやワークショップなどをつうじて、子供たちのみならず地域住民が交流する機会を増やし、地域社会の活性化につなげることも見込めるのではないだろうか。加えて、コロナ禍を経てのミュージックツーリズム（音楽鑑賞と観光を融合させた旅行）も注目を浴びている。海外のみならず国内の「音楽祭」は活気を取り戻しており、地域経済の活性化にも結びつく。人と人をつなぐことで、今後、情報共有を活用しつつ多くの人々が音楽に触れる機会を創出する、これらを立体的に複合させた取り組みがさらに必要となるであろう。

ポストコロナ時代は

ポストコロナ時代におけるクラシック音楽は、国際情勢による影響などの克服やＩＣＴの進展を受容しながら、新たな可能性の追求と価値の創造を行っていくと考えられる。一方、クラシック音楽は長い歴史と豊かな伝統をもつとともに、時代や文化、国境を超えて愛される普遍性も併せもつ。ＩＣＴやＡＩ（人工知能）の急速な進歩とは裏腹に、人間の心の豊かさがますます重要視されることはいうまでもない。音楽に携わる私たちは、多様な聴衆層の獲得や将来の担い手の育成など、時代の動きに目を向けつつ芸術性を深め、クラシック音楽がより多くの人に愛される取り組みを進めていきたい。

附属高等学校 2027年4月

文:学長・校長 福井直昭

新時代の音楽教育に適した新校舎誕生へ

巻頭の「ごあいさつ」でも触れたように、2027年4月に附属高等学校を埼玉県入間市から東京都練馬区へ移転いたします。むらさき寮跡地に建設する新校舎は、大学から徒歩3分に位置することで、高大接続・連携をさらに深化させると共に、附属高校生徒が大学の教員・学生と交流する機会も格段に拡充させることでしょう。もちろんハード面だけでなく、音楽教育のフロンティアへ向かって、魅力ある運営・授業カリキュラムを提供し続けていく次第です。生徒たちが音楽の力で自らの未来を切り拓いていけるような教育を実践いたします。

1階ホール(入口から)

入口の先の階段を降りると、約280㎡の大きなホールが広がります。正面のガラスパーテーションを挟んで、エントランスホールが一体としてゆるやかにつながり、大きな広がりを見せます。

気づきと創造力をもたらす空間

多感で好奇心あふれた成長途上の表現者たちが、それぞれの夢に向かって感性を磨く場でありたい—その思いから、新校舎は設計コンセプトに「気づきと創造力をもたらす空間」を掲げ、3年間学び舎を共にする仲間が、互いを感じ、刺激し合う仕掛けを、建物に落とし込みます。

エントランス

大きな庇とタイル貼りの壁で構成された、明るく温かみのある構えで、生徒を迎えます。エントランス周囲には桜やハナミズキなど、季節の移ろいを感じられる木々を配しています。

例えば、3階のレッスン室・練習室への一部ガラス間仕切りの採用は、一人ひとりの練習意欲を掻き立てるに違いありません。2階の教室にはランダムにスリットガラスを差し込み、また、1階の特別教室をガラス張りとすることで、授業風景をよりオープンにするなど、人の気配が感じられるつくりとしました。校内全体が学習と交流が融合し、それぞれの思いが出会う環境となっています。

外観

壁面は、ガラスで囲まれた階段をアクセントに、金属パネル・ガラス窓・コンクリートの面をリズミカルに組み合わせて構成し、生徒の感性に訴える流動的なアシンメトリー(左右非対称)デザインとしています。

東京都へ移転

※東京都認可申請手続き中／学校設置計画承認済
※計画パースイメージは2024年7月現在のものであり、
今後変更となる可能性があります

普通教室

大開口サッシにより外部採光をふんだんに取り込むことで、明るい空間となっています。廊下側に開口を計画することで、廊下や理科室・家庭科室の人の気配を感じることができます。

積極的に外界へ意識を向けることは、自らをより開いた世界へ連れていきます。光や風、木々のゆらぎといった自然の働きを感じることは、豊かな表現力・創造力の向上を加速するでしょう。例えば、2階体育スタジオの上部に設けたトップライト（天窓）や、南側のガラス張りの大階段からは自然光を取り入れ、その光の角度で一日の時間の流れや季節の移ろいを感じることができます。一方、省エネ・維持管理の側面から、複層ガラスを採用し、サステナブルで時代に即した“光と心が通う”教育空間を実現します。

1階ホール（図書館・メディアセンターから）

生徒が食事や歓談をするラウンジエリアです。ガラス開口を大きくとり、自然光を取り入れた明るい空間で、生徒の自由なコミュニティ形成を促します。

図書館・メディアセンター

PCの使用や、楽譜の閲覧を行う場であり、壁を設けずに床を下げることで、ホールとゆるやかにつながりながら、プライベート性も確保しています。

レッスン・練習室

3階にはレッスン・練習室を34室計画しています。壁面の一部をガラスとすることで、オープンな練習風景が連なります。このほかにも1階に多目的スタジオを設けており、室内楽や打楽器の演奏に使用します。

体育スタジオ

体育の授業や、合奏スタジオとして多目的に使用が可能です。天井高さ約5mの大空間にはトップライト（天窓）を設けており、1日の光の移ろいを感じることができるでしょう。

新しい音楽教育の在り方を体現する高校に相応しく、あたかも“街角に浮遊する塊”のような、未来を感じさせる外観デザインの新校舎は、きっとそこに集う生徒たちによって更なる輝きを増していくことでしょう。音楽を学ぶことに最適な環境で、希望に胸を膨らませている元気な笑顔と出会うことを、私たちは楽しみにしています。

大学特別オペラ公演

ジャン＝カルロ・メノッティ作『ヘルプ！ヘルプ！宇宙人が襲ってきた！』開催

４月28日、29日、30日の３日間にかけて、令和６年度武蔵野音楽大学「コンコルディア奨学金」助成事業※ 特別オペラ公演がブラームスホールにて開催されました。本学ではこれまでにも、モーツァルトの『ドン・ジョヴァンニ』や『魔笛』、『フィガロの結婚』など、名オペラの数々を上演しており、そのどれもが高い評価を受けていますが、今年度はジャン＝カルロ・メノッティのオペラ『ヘルプ！ヘルプ！宇宙人が襲ってきた！』を取り上げました。親しみやすい旋律と、ユーモアを含みながらもメッセージ性に富んだファンタジー溢れる本作は、20世紀近代オペラの注目作の１つとして、近年上演回数も増えている作品です。

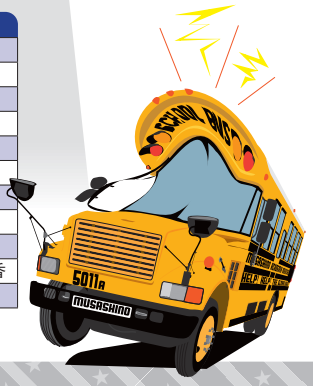
今回の公演は、指揮に佐藤正浩氏、演出に岩田達宗氏と、共に国内外で活躍する本学特任教授のお二人を迎え、さらにキャストには本学教員と学生、また本学を巣立ちオペラ界で躍進する若手歌手たちをオーディションで選抜し、連日熱のこもった練習を重ねてきました。

全日完売御礼となった３度にわたる公演では、斬新な舞台美術と色彩豊かな衣装、またブラームスホールの設備性能を駆使した美しい照明デザインが本オペラの世界観を見事に作り出し、キャストはオーケストラの生き生きとした響きに乗って、歌に演技に、ユーモアたっぷりで楽しい舞台を繰り広げ、連日聴衆からは万雷の拍手が送られました。

このたび、公演を終えたばかりの教員と学生に、オペラ公演を通しての感想やエピソードを語っていただきました。

※本奨学金は、令和４年に一篤志家からの寄附を基金として創設され、学術・研究において特筆すべき顕著な成果を上げ社会で活躍するもの、及び今後の成長が大いに期待できる有望な人材、並びに本学が主催する重要な演奏会やオペラなどの教育研究活動・事業への助成を行っております。

	4月28日㊐、30日㊋	4月29日㊊・㊗
エミリー	今井美玖	上野紗和
音楽の先生	土屋優子	林 真悠美
校長先生	谷 友博	樋口達哉
トニー	青地英幸	上田 駆
門番	照屋篤紀	島 敬祐
算数の先生	齋藤菜々子	塙 梨華
国語の先生	望月一平	野中遥己
理科の先生	奥秋大樹	杉尾真吾
アナウンサー	三戸大久	
生徒	角木タミエ、中山里咲、久我真由、佐野詩織、伊藤和奏、長島有葵乃、野村拓海、村瀬優梨花、井筒梨音香	
宇宙人（ダンサー）	横田雪華、石川 柊、スタンリー峰輪、長坂明音、安立夏美、桑原理紗	



重要な役どころの宇宙人（ダンサー）は全員本学在学生が務めた。ダンサーは愛嬌のある宇宙人を動きで表現し、オペラの世界観を作りあげた。

佐藤正浩 本学特任教授（指揮）

今回、武蔵野音大を挙げて上演されたオペラ公演を指揮させて頂き、無事成功裡に終えられ、ほっとしています。歌手はオーディションによって選ばれた現役の学生（学部と大学院生）、既にオペラ界で活躍する卒業生たち、そして経験豊かな先生たちと、オール武蔵野のミックスでしたが、何よりも実り多かったのは、学生たちが先輩たち、先生たちがオペラに取り組む姿を目の当たりにし、そこから多くを学んだことだと思います。そして日本を代表する演出家、岩田達宗先生のもと作り上げる舞台の一部になろうと努力する姿は、武蔵野の学生らしい謙虚さが見て取れました。この経験は、必ずやこれからの舞台人生の礎となることでしょう。

そしてオーケストラの学生の皆さん。歌手たちは2ヶ月にわたる練習期間がありましたが、オケはたった2週間だけ（これでもプロに比べたら多い方だが）。オペラは初めて！という人ばかりで最初はどうなる事かと心配しましたが、練習を重ねる毎に成長するのを実感しました。そして歌手と一緒の練習が始まると、色彩が現れ、一緒に音楽を作る楽しさを味わい、最終的にはオペラの一部になってくれました。オーケストラの力が公演の成功に寄与したのは言うまでもありません。

総合芸術であるオペラを通して、学生たちが素晴らしい経験が出来たのは貴重なことです。またの機会が訪れることを願っています。

岩田達宗 本学特任教授（演出）

オペラは声楽家だけのものではありません。確かに声楽家が中心となってオペラは制作されますが、オーケストラも主役なのです。楽器を演奏するものだけではありません。ダンサーや俳優も主役です。そしてそれを支えるスタッフと共に作品を完結してもらう最終的な主役がお客様なのです。これがオペラです。人間が集うこと、人が実際に手と手を繋いで協力することが稀少になってくる現代。オペラの上演は本当に価値のあることです。声楽家とはオペラという場所に多くの人々が集うために尽力を惜しまない者達のことです。

今回、オペラのなんたるかを武蔵野音楽大学が理想的に示してみせたと思います。それはメノッティの理想であったと信じています。その実現に多大なご尽力をいただいた皆さんに最高の敬意を表します。そしてお客様を含め全ての関係者に最大の称賛を贈ります。

皆さん、集まってオペラをやりましょう。武蔵野音大という素晴らしい場所をもっと盛り上げましょう。

それぞれの役柄に応じた衣装やメイクがオペラを彩った。

巧みな照明技術により視覚的な美しさを演出した。

佐藤美枝子 本学声楽コース長・教授

佐藤正浩先生、岩田達宗先生率いるアーティストとスタッフの方々のクリエイティブなプロ集団が作り出す舞台に、若き卒業生もさることながら、沢山の学生が出演できたことを一番喜んでいたのは、出演できた本人たちに他ならないでしょう。これは彼らの稽古中の姿勢からひしひしと感じたことでした。オーディションで選出された学生出演者は、大半がオペラ未経験の学生であったものの、両先生を始めとするプロのスタッフ、キャストから本格的な指導を受ける稽古で切磋琢磨し、開眼していく様を間近で見ることができました。今回の経験が彼らの人生にとってかけがえのない経験になった事は言うまでもありません。

出演した先生方、内外で活躍する卒業生は、武蔵野音大の「和」を重んじる精神を変わらずに持つ歌手達ばかりで、その背中を見つつ毎日楽しみながら学んだ学生達の精神性こそが、驚異的な一体感を生み出し、また沢山の能力を引き出させ、素晴らしい舞台が作り出されました。

このオペラ公演を成功に導いてくださったマエストロ、演出家の岩田先生、諸先生方、スタッフの皆様、そして当日いらしてくださったお客様へ、心より厚く御礼を申し上げます。

佐藤正浩 特任教授

サンフランシスコ歌劇場、リヨン国立歌劇場、パリ・シャトレ劇場でコレペティトール・副指揮としてキャリアを始める。イギリスで「イドメネオ」を指揮しデビュー。日本では新国立劇場、日生劇場、二期会、藤原歌劇団等で指揮。新国立劇場オペラ研修所長。

岩田達宗 特任教授

オペラ演出家。五島記念文化賞オペラ新人賞、音楽クリティック・クラブ賞を受賞。演出した作品は芸術祭大賞、三菱UFJ音楽賞、佐川吉男賞など受賞。ひろしまオペラルネッサンス芸術監督、東京文化会館運営委員、大阪音楽大学客員教授。

佐藤美枝子 声楽コース長・教授

武蔵野音楽大学卒業。第11回チャイコフスキー国際音楽コンクール声楽部門第1位。第7回五島記念文化賞オペラ新人賞、第9回出光音楽賞、第10回新日鐵音楽賞フレッシュアーティスト賞、第50回ＥＮＥＯＳ音楽賞洋楽部門本賞受賞。藤原歌劇団団員。日本オペラ協会会員。

算数の先生役の齋藤さん（右から2人目）

舞台から見たあの景色は、一生忘れない

塙　梨華さん
（大学院音楽研究科修士課程ヴィルトゥオーゾコース２年）

最初は何もかも分からないことだらけで、演出や指揮の先生からのご指摘に応えていくことに必死で大変苦労した一方、先輩方が状況に応じて臨機応変に対応していたのが印象に残っています。不慣れな役作りは、メガネのずらし方や歩き方に至るまで、自宅で何度も練習しました。本番は、今まで経験したことのない舞台や客席の雰囲気に圧倒されましたが、その中で役を演じることはとても楽しかったです。

算数の先生役の塙さん（左から2人目）

多くの方に支えられて、輝くことができる

齋藤菜々子さん
（大学院音楽研究科修士課程２年）

先生方や先輩たちからは、細かい日本語のニュアンスなど、細部に至るまでご指導いただきました。また、オペラは周りの出演者との連携がとても重要で、立ち位置や動線など、考えなくてはいけないことが山積みで大変でした。本番の衣装やメイクをしてもらうことで、役に気持ちが入っていくあの感覚は、今でも印象に残っています。オペラは沢山の方々の知恵と協力により作られているのだと、身をもって体験することができました。

挑戦を重ね、素晴らしい舞台へ

上野紗和さん
（大学院音楽研究科修士課程ヴィルトゥオーゾコース２年）

稽古では、諸先生方、先輩方の歌唱や、舞台での立ち振る舞いはもちろんですが、演出家の先生の要求に応えるだけではなく、そのあとに自分自身で新しいことにチャレンジし、どんどん試していくというその姿勢が、何よりも勉強になりました。関係者の皆様と作り上げた本番は、何物にも代えがたいものであり、またいつか、今度は卒業生として、この素敵な舞台に帰ってくることができるよう、努力を惜しまず精進してまいりたいと思います。

厳しい稽古を乗り越えた先にある達成感

上田　駆さん
（音楽学部演奏学科ヴィルトゥオーゾコース４年）

オーケストラ伴奏で歌うのは初めてだったので、リハーサル初日はなかなか合わず、苦労の連続でした。普段はピアノ伴奏で稽古を進めているため、オーケストラのスケールの大きい音に合わせていく方法や、それぞれの楽器特有の演出など、学ぶことが多かったです。本番当日の会場のブラームスホールは、舞台装置を設けるなど、見慣れたはずのホールとは思えない大変身を遂げており、素晴らしい企画に参加できたのだと改めて実感しました。

エミリー役の上野さんと
トニー役の上田さん

外観

ロビー

学生レジデンス「Flügel（フリューゲル）」誕生

豊かな暮らしを友と共創・協奏し、未来への翼を手に入れる

エントランス

中庭

2024年4月、新年度の始まりとともに、女子専用の新学生レジデンス「Flügel（フリューゲル）」（設計・施工：株式会社長谷工コーポレーション）の運用を開始しました。

江古田キャンパスから徒歩2分に立地する“Flügel（フリューゲル）”は、一般的な学生寮のイメージを覆す高級感とスタイリッシュな建物で、個室方式によりプライベート空間を確保しながらも、一人暮らしでは得られない広い共用スペースを完備しており、友人同士のコミュニティを自然に誘発します。冷暖房を完備した快適な練習室も21室備えています。また、エントランスにはオートロックシステムを採用し、ノンタッチキーをかざすだけで自動ドアを解除できます。建物周辺には防犯カメラを設置、防犯センサー、警備会社の夜間配置等、安全性と利便性の両立を実現させています。食堂の天窓や、中庭に面した大開口の窓から覗く四季の変化など、様々な空間体験から喚起される感情は、寮生たちの音楽表現の礎となることでしょう。

福井学長は3月末に全入居者を対象に行った入居式の中で、“Flügel（フリューゲル）”とはドイツ語で“翼”という意味で、由来はベートーヴェンの「交響曲第九番」の第四楽章「歓喜の歌」にあると話し、ここに住まう寮生たちが、かけがえのない時間と笑顔が満ちる豊かな暮らしを友と共創し、未来への翼を手に入れてほしいとメッセージを送りました。寮生たちがそれぞれのプライベートを満喫しつつ、様々な価値観をもつ友人との交流や日々のかけがえのない空間体験を通じて、音楽家としてのあらたな発見を楽しめる豊かな日常を送ることを願います。

食堂天窓

食堂

練習室前通路

外観

居室内

Musashino Topics

▶令和5年度音楽大学卒業生演奏会（桃華楽堂）

2024年3月11日、皇居内にある音楽ホール桃華楽堂で、在京5音楽大学の代表による「音楽大学卒業生演奏会」が開催されました。本学からは、主演：加藤凜太朗さん（テューバ）と助演：太田 舞さん（ピアノ伴奏）が出演し、シューマン作曲「アダージョとアレグロ Op.70」を披露させていただきました。

▶令和5年度クロイツァー賞受賞者

日本のピアノ音楽発展に寄与した故レオニード・クロイツァー教授の名を冠した「クロイツァー賞」。東京藝術大学、国立音楽大学、武蔵野音楽大学の大学院修了生から、毎年特に優れた成績を修めた学生が選出されます。本学からは大学院音楽研究科修士課程ヴィルトゥオーゾコース修了の髙橋七海さんが選ばれました。受賞者による演奏会は、2024年7月4日19:00より東京文化会館小ホールで開催されます。

▶本学名誉教授の称号授与

永年にわたる教育上、学術上の顕著なご功績により、令和6年4月1日付で栗山文昭氏（合唱指揮）、薦田治子氏（音楽学）、堺 和男氏（英語）、寺本まり子氏（音楽学）、イアン・カメロン・マックミッキング氏（英語）に、武蔵野音楽大学名誉教授の称号が授与されました。

▶武蔵野音楽大学ウィンドアンサンブルCD最新盤の発売

本学ウィンドアンサンブルのCD Vol.26が、ブレーン株式会社から5月17日に発売されました。2023年度の定期演奏会のプログラムからパーシケッティ：交響曲 第6番、スティーヴンソン：交響曲 第4番のほか、全7曲が収録されています。（指揮＝レイ・E.クレーマー）お求めはお近くの販売店で、本学演奏部窓口でも販売しています。（税込2,530円）

2023年10月から12月に開催した演奏会

崔 文洙 客員教授 ヴァイオリン・コンサート＆公開講座

日時 2023年10月10日（火）18:30
場所 ブラームスホール
ピアノ＝水野ゆみ（本学講師）

PROGRAM
フランク：ヴァイオリン・ソナタ イ長調　他

坂東玉三郎 特別招聘教授による 特別公開講座

日時 2023年11月1日（水）18:30
場所 ブラームスホール

ニュー・ストリーム・コンサート51 ～ヴィルトゥオーゾコース演奏会～

日時 2023年11月16日（木）19:00
場所 トッパンホール
出演＝曽田美音（2年・Pf.）、三友 優（2年・Pf.）、上田 駆（3年・Br.）、阿部和輝（3年・Fg.）、丸山真一郎（4年・Vn.）、加藤愛海（4年・Cl.）

武蔵野音楽大学教員による 室内楽の夕べ

日時 2023年10月24日（火）18:30
場所 ブラームスホール
出演＝深山尚久（Vn.）、水野佐知香（Vn.）、丸山由里子（Vn.）、恵谷真紀子（Va.）、渡邉信一郎（Va.）、黄原亮司（Vc.）、三宅 進（Vc.）、髙山智仁（Cb.）、山本正治（Cl.）、岡崎耕治（Fg.）、丸山 勉（Hrn.）

PROGRAM
ドヴォルジャーク：弦楽四重奏曲 第12番 ヘ長調 Op. 96〈アメリカ〉
ベートーヴェン：七重奏曲 変ホ長調 Op.20　他

管弦楽団演奏会

日時 2023年11月24日（金）18:30
場所 東京オペラシティ コンサートホール
指揮＝飯森範親（客演指揮者）

PROGRAM
メンデルスゾーン：〈フィンガルの洞窟〉序曲 Op. 26
R. シュトラウス：アルプス交響曲 Op. 64　他

イリヤ・イーティン 客員教授 ピアノ・リサイタル

日時 2023年11月27日（月）18:30
場所 ベートーヴェンホール

PROGRAM
ハイドン：ピアノ・ソナタ 第60番 ハ長調 Hob.XVI:50
プロコフィエフ：ピアノ・ソナタ 第8番 変ロ長調 Op.84　他

オペラ選抜クラス試演会

(日時) 2023年11月29日(水)18:00
(場所) ブラームスホール
指揮＝佐藤正浩(本学特任教授)
音楽指導＝佐藤美枝子(本学教授、声楽コース長)
演出＝岩田達宗(本学特任教授)
ピアノ＝谷川瑠美(本学講師)、瀧田亮子(本学講師)

PROGRAM　※下記より抜粋

ベッリーニ:《カプレーティ家とモンテッキ家》、《清教徒》
ドニゼッティ:《愛の妙薬》、《ランメルモールのルチア》　他

室内合唱団演奏会

(日時) 2023年12月6日(水)18:30
(場所) ベートーヴェンホール
指揮＝栗山文昭(本学名誉教授)、片山みゆき(本学講師)
ピアノ＝齋藤誠二(本学研修員)、川瀬紗綾(本学研修員)
ハープ＝箱山輝之介(大学院1年)

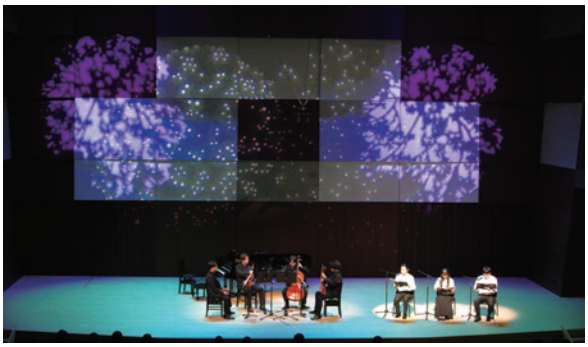
PROGRAM

ブラームス:哀悼歌 Op. 82
三善 晃:混声合唱と2台のピアノのための《であい》　他

アートマネジメントコース企画制作公演

宮沢賢治没後90年記念
クラシック×宮沢賢治 文学と音楽の星空へ

(日時) 2023年12月8日(金)18:30
(場所) ブラームスホール



ウィンドアンサンブル演奏会

(日時) 2023年12月12日(火)18:30
(場所) 東京芸術劇場 コンサートホール
指揮＝レイ・E. クレーマー(本学名誉教授)

PROGRAM

スティーヴンソン:交響曲 第4番(日本初演)
ドアティ:ストコフスキーの鐘　他

ミューズフェスティヴァル開催

招待演奏＝サクソフォーン独奏:都築 惇(本学講師)　ピアノ:小池ちとせ(本学教授)

10月27日から29日までの3日間、「第71回ミューズフェスティヴァル」が“響”をテーマに掲げ開催されました。

前日祭ではおなじみの仮装ブラス＆オケ等の楽しいステージ企画が行われ、続く本祭では学生演奏のほか、管弦楽団、フルートオーケストラ、本学教員による招待演奏、また、正課・課外活動の研究発表や展示により日頃の成果を披露しました。さらに、リストプラザには、コロナ禍の制限開催を経て5年ぶりの実施となった模擬店が並び、それぞれの味を楽しみつつ歓談する姿が見られました。音楽があふれるアカデミックな内容の祭典は、連日多くの来場者で賑わいました。

大学令和５年度卒業式･修了式、令和６年度入学式

令和５年度卒業式･修了式を、３月23日にベートーヴェンホールにおいて挙行し、所定の課程を修め、その業を卒えた大学院博士課程、大学院修士課程、学部、別科の各学生が新たな門出を迎えました。式典は、オルガンによる前奏で開式した後、音楽学部総代と大学院各修了生へ学位記が、別科修了生代表へ修了証がそれぞれ福井直昭学長より授与されました。続いて、学長式辞、卒業生答辞、記念品贈呈と進み、「ほたるの光」を出席者全員で合唱し閉式となりました。卒業式後には会場を都内のホテルに移し、卒業生主催による謝恩パーティーが５年ぶりに催されました。キャンパスライフを共にした友人やお世話になった先生方と思い出話に花が咲き、場内は大いに盛り上がりました。

福井直昭学長式辞

音楽学部総代　恒本優花(ヴィルトゥオーゾコース ピアノ専攻)

答辞　李 昌周(音楽学コース)

４月１日には、令和６年度大学院・大学・別科入学式を同じくベートーヴェンホールで執り行いました。式はオルガンの前奏で始まり、福井直昭学長式辞、新入生代表宣誓と続き、在学生による奏楽「R. シュトラウス：ウィーン・フィルハーモニーのためのファンファーレ」により華やかに締めくくられました。

卒業生、新入生の皆さんが充実した日々を送られることを期待します。

新入生代表宣誓　大竹 豊(ヴィルトゥオーゾコース 声楽専攻)

附属高等学校行事

[創立50周年記念コンサート]

武蔵野音楽大学附属高等学校は2023年に創立50周年を迎え、この記念年を祝したコンサートを11月3日、ブラームスホールにて開催しました。当日は多くの卒業生や関係者が参集し、大変盛会のうちに終了しました。本校は、これまでの伝統と歴史を次の時代に向けて架橋すべく、一層の努力を傾注していきます。

[ドリームコンサート2024]

2月25日バッハザールにて、ドリームコンサートを開催しました。本コンサートは生徒たちの授業成果を発表する場として年度末に実施しており、今回で10回目を数えました。当日は杉島理一郎入間市長をはじめとする約600名の来場があり、生徒たちの真摯な演奏に温かい拍手が送られました。

[附属高等学校令和5年度卒業式・令和6年度入学式]

令和5年度卒業式が3月1日ブラームスホールにおいて、さらに令和6年度入学式が4月2日バッハザールにおいて挙行されました。卒業生、新入生の皆さんが新たなステージで活躍することを祈念します。

卒業演奏会出演者

入学式にて記念撮影

附属各幼稚園　修了式・入園式

各幼稚園ではそれぞれ令和5年度修了式と令和6年度入園式が開かれました。

修了式では、三年間を過ごし大きく成長した年長児が、堂々とした姿で修了証書を受け取りました。お別れを名残惜しみつつも、修了生たちは夢と希望をもって巣立っていきました。

一方、第一、第二幼稚園の入園式では、真新しい制服に身を包んだ新入園児が幼稚園の門をくぐりました。先生や在園児からの温かい歓迎を受け、幼稚園生活がスタートしました。

武蔵野音楽学園教育運営推進協力寄附金　ご寄附をいただいた方々

学校法人武蔵野音楽学園では、寄附金に対する税額控除制度の恩典が与えられたことに鑑み、教育環境整備基金、福井直秋記念奨学基金並びに演奏活動特別基金の拡充を目的とする寄附金を募集しましたところ、下記の方々よりご寄附をいただきました。ここにご芳名を掲載し、深く感謝の意を表します。

学校法人　武蔵野音楽学園

同窓生

荒木　渉様　田代有一様　長柄弘道様　光田明子様　レイ・E. クレーマー教授 武蔵野音楽大学就任 30 周年記念卒業生有志による吹奏楽演奏会　実行委員会様
飯泉祐美子様　塚越淑子様　林　秀樹様　村上僖美枝様
伊藤真理絵様　徳田ゆき様　半場良子様　村上由美様

在学生・同ご父母

小瀬妙子様　島田寛子様　髙山和広様　横尾好宣様

役員・教職員・一般・他

相原　学様　関根弘美様　福井直敬様　松隈和子様　アミーズ・エデュケーショナル株式会社（アミーズ音楽教室）様
今野増雄様　田代愼之介様　本庄　忍様　守重信郎様
坂下裕子様　戸田史郎様　前田　淳様　渡邉規久雄様

（他に匿名を希望される方22名）

※ご芳名（五十音順）は、2023年7月1日から2024年2月29日までにご寄附いただいた方々です。
それ以降の方々は、次号にて掲載させていただきます。また勝手ながら掲載区分は当方で決めさせていただきました。何とぞご了承ください。
※本学ウェブサイトからも、クレジットカード決済によりご寄附のお手続きができます。是非ご利用ください。

コンクール入賞者等

名　称	内　容	氏　名
武蔵野音楽大学 コンコルディア奨学金	受給	土屋優子（2012年修士修了・声楽）
		木林理絵（2014年修士修了・ピアノ）
令和５年度（第74回）芸術選奨文部科学大臣新人賞（音楽部門）	受賞	大西宇宙（2010年修士修了・声楽）
第25回ホテルオークラ音楽賞	受賞	大西宇宙（2010年修士修了・声楽）
埼玉県 令和５年度下總皖一音楽賞	音楽文化貢献部門 受賞	大滝　実（本学講師・指揮）
2023 PIANO! 国際コンクール（ドイツ・ミュンスター）	第２位	吉原麻実（2021年修士修了・ピアノ）
第34回朝日作曲賞（合唱組曲作品）	朝日作曲賞受賞、 2024年度全日本合唱コンクール課題曲に選出	村本晋也（2008年修士修了・ピアノ）
第25回日本演奏家コンクール	声楽部門 大学生の部 第１位、 神奈川県知事賞	上田　駆（大学３年・声楽）
第12回みおつくし音楽祭 大阪クラシックコンクール	弦楽器チェロ 一般の部 第１位、 音楽監督賞、大阪市教育委員会賞	青山真梨花（2022年修士修了・チェロ）
第12回下田国際音楽コンクール（オンライン審査）	一般部門 第１位、 ハリス賞	谷口万穂子（2012年大学卒業・声楽）
第32回サウンズコンテスト（主催：大分県情報サービス産業協会）	フリー曲部門 一般の部 第１位	大塚考浩（2004年大学卒業・ピアノ）
第25回ショパン国際ピアノコンクール in ASIA アジア大会	ショパニストＳ部門 金賞、 ショパン協会賞	戸畑和子（1989年修士修了・ピアノ）
第20回関西トロンボーン協会コンクール	成人ソロ部門 第１位	佐藤　慧（大学４年・トロンボーン）
第14回とよはし音楽祭 チャレンジド・ミュージックコンテスト	作曲部門 グランプリ、 最優秀作曲賞	櫻井春佳（大学３年・ピアノ）
第１回煌めくながさき音楽コンクール	ソロコース 大学・一般部門 最優秀賞（オーケストラと共演）	新貝　楓（大学２年・オーボエ）
第２回ファニー・メンデルスゾーン国際オンラインコンクール	室内楽部門 Master B 第１位	吉原麻実（2021年修士修了・ピアノ）
第29回フッペル鳥栖ピアノコンクール2023	ジュニア部門Ｂコース 大学、 一般の部 銀賞	木本こころ（大学２年・ピアノ）
第23回中国音楽コンクール	専門の部 銀賞	王　藝涵（修士１年・ヴァイオリン）
第3回国際声楽コンクール東京	グランプリ部門 第２位	前田めぐみ（2015年修士修了・声楽）
	グランプリ部門 第３位	塙　梨華（修士１年・声楽）
	新進声楽家部門 第３位（１位なし）	黒木菜月（2023年大学卒業・声楽）
第26回“万里の長城杯”国際音楽コンクール	管楽器部門 大学の部 第３位	春口峻也（大学２年・フルート）
第６回東京国際マリンバコンクール	第３位	三浦玲音（大学１年・マリンバ）
第14回ヨーロッパ国際ピアノコンクール in Japan	自由曲コース 大学Ａ部門 銅賞	石川千夏（大学４年・ピアノ）
第25回ショパン国際ピアノコンクール in Asia オンライン決勝大会	ショパニストＳ部門 銅賞	齋藤幸子（1980年大学卒業・ピアノ）

※上記の他多数。大学ウェブサイトをご覧ください。掲載は順不同、敬称略、学年は受賞時のものです。

武蔵野音楽大学同窓会 全国総会のお知らせ

令和６年度 武蔵野音楽大学同窓会全国総会は、令和６年９月13日（金）午後６時より武蔵野音楽大学ブラームスホールにて開催されます。皆様のご参加をお待ちしています。

2024年7月から12月開催の演奏会

7月1日㊊ (18:30)	ケマル・ゲキチ客員教授　ピアノ・リサイタル	ベートーヴェンホール(江古田) ¥2,000〈全席自由〉
7月6日㊏ (14:00)	ウィンドアンサンブル演奏会(熊本公演・東京公演) 指揮＝ジェームズ・M.ランブレクト 曲目＝シュワントナー：ルミノシティ グレインジャー：デンマーク民謡組曲 全日本吹奏楽コンクール課題曲より(熊本公演のみ)　他	熊本県立劇場 コンサートホール 一般¥1,500／小中高生¥1,000〈全席自由〉
7月16日㊋ (18:30)		東京芸術劇場 コンサートホール 一般¥1,500／小中高生¥1,000〈全席指定〉
9月24日㊋ (18:30)	管弦楽団演奏会(東京公演・富山公演) 指揮＝和田一樹 ピアノ独奏＝本学学生オーディション合格者 曽田美音(演奏学科ヴィルトゥオーゾコース3年)[24日・東京] 三友　優(演奏学科ヴィルトゥオーゾコース3年)[27日・富山] 曲目＝グリーグ：ピアノ協奏曲 イ短調 Op.16 エルガー：交響曲 第1番 変イ長調 Op.55　他	東京芸術劇場 コンサートホール 一般¥1,500／小中高生¥1,000〈全席指定〉
9月27日㊎ (18:30)		オーバード・ホール(富山市芸術文化ホール)大ホール 一般¥1,500／学生(大学生以下)¥1,000〈全席自由〉
9月29日㊐ (14:00)	附属高等学校音楽科　第28回 在校生によるコンサート ※お問合せ＝武蔵野音楽大学附属高等学校　TEL.04-2932-3063	ブラームスホール(江古田) ¥1,000〈全席自由〉
10月3日㊍ (18:30)	武蔵野音楽大学 コンコルディア奨学金受給記念コンサート 土屋優子　ソプラノ・リサイタル	ブラームスホール(江古田) 無料〈全席自由・要事前予約〉
10月21日㊊ (18:30)	崔　文洙客員教授　ヴァイオリン・ミニコンサート＆公開講座 ピアノ＝イリヤ・イーティン	ブラームスホール(江古田) ¥2,000〈全席自由〉
11月5日㊋ (18:30)	坂東玉三郎特別招聘教授公開講座	ブラームスホール(江古田) ¥2,000〈全席自由〉
11月14日㊍ (19:00)	ニュー・ストリーム・コンサート 54　～ヴィルトゥオーゾコース演奏会～ 出演＝大宮みゆら(Vo.)、藤井桜子(Trp.)、長嶋穂乃香(Vo.)、高野遥輝(Hrn.)、宮野恵輔(Cl.)、増田珠里(Pf.)	トッパンホール ¥1,500〈全席自由〉
11月20日㊌ (18:30)	イリヤ・イーティン客員教授　ピアノ・リサイタル	ブラームスホール(江古田) ¥2,000〈全席自由〉
11月26日㊋ (18:30)	管弦楽団演奏会 指揮＝現田茂夫 曲目＝ファリャ：バレエ音楽《三角帽子》 サン＝サーンス：交響曲 第3番 ハ短調 Op.78	東京オペラシティ コンサートホール 一般¥1,500／小中高生¥1,000〈全席指定〉
12月3日㊋ (18:30)	室内合唱団演奏会 指揮＝片山みゆき、佐藤洋人 曲目＝グレゴリオ聖歌、新実徳英：混声合唱曲集《空に、樹に…》より ヘンデル：《メサイア》より　他	ベートーヴェンホール(江古田) ¥1,000〈全席自由〉
12月9日㊊ (18:30)	ウィンドアンサンブル演奏会 指揮＝飯森範親	ベートーヴェンホール(江古田) 一般¥1,500／小中高生¥1,000〈全席自由〉

※やむを得ない事情により、開催日時・出演者・曲目等を変更する場合もありますので、あらかじめご了承ください。
※チケットは本学ウェブサイトより購入できます。
●お問合せ　演奏部 TEL. 03-3992-1120　●武蔵野音楽大学ウェブサイト　https://www.musashino-music.ac.jp/

オープンキャンパス、中高生のためのステップアップ・レッスン、音楽指導者セミナー

オープンキャンパス

開催日	主な実施内容	会場
7月14日㊐ 8月　4日㊐ 9月　8日㊐ 10月20日㊐	ガイダンス(大学案内)、附属高等学校説明会、体験レッスン、学生によるコンサート、キャンパスツアー、体験授業、質問コーナー、保護者説明会	武蔵野音楽大学 江古田 キャンパス

音楽指導者セミナー

開催日	内容	会場
10月13日㊐	本学の講師陣による、楽器や声楽などの指導者、小学校・中学校・高等学校の先生を対象としたセミナーです。全10講座を開講します。	武蔵野音楽大学 江古田 キャンパス

中高生のためのステップアップ・レッスン

開催日	内容	会場
9月29日㊐	管楽器・打楽器・弦楽器	武蔵野音楽大学 江古田 キャンパス
11月17日㊐		
2025年　2月16日㊐		
10月　6日㊐	ピアノ・声楽	
12月　1日㊐		
2025年　2月23日㊐		

※事前申し込みが必要です。詳細は本学ウェブサイトをご覧ください。【お問合せ】入学センター　TEL.03-3992-2500
E-mail：nyugaku-c@musashino-music.ac.jp

2024年度 免許法認定講習

講習会名	日程	申込期間
免許法認定講習	7月23日㊋～ 8月　3日㊏	7月　1日㊊消印～ 7月12日㊎必着

【会　　場】武蔵野音楽大学　江古田キャンパス
※詳細は要項(本学ウェブサイト内掲載中)でご確認ください。
【お問合せ】学務部学務課 TEL.03-3992-1128

武蔵野音楽大学ウェブサイト
https://www.musashino-music.ac.jp/

2024年度 大学・高校受験講習会

講習会名	日程	申込期間
夏期受験講習会Ⅰ期	8月　7日㊌～8月　9日㊎	6月10日㊊～7月24日㊌
夏期受験講習会Ⅱ期	8月23日㊎～8月25日㊐	6月10日㊊～8月12日㊊・㊡
秋期受験講習会	9月15日㊐・16日㊊・㊗	7月19日㊎～9月　1日㊐

【会　　場】武蔵野音楽大学　江古田キャンパス
【要項請求】本学ウェブサイト内の「資料請求フォーム」からお申し込みいただくか、広報室（TEL.03-3992-1125）へお電話にてご請求ください。
【お問合せ】入学センター　TEL.03-3992-2500
E-mail：nyugaku-c@musashino-music.ac.jp

Contents Vol.145 2024

1　ごあいさつ　学長　福井直昭

2　巻頭　ポストコロナ時代の音楽動向　高山直也

5　附属高等学校　2027年4月東京都へ移転

7　大学特別オペラ公演『ヘルプ！ヘルプ！宇宙人が襲ってきた！』開催

11　学生レジデンス「Flügel（フリューゲル）」誕生

Musashino Topics

13　Musashino News
- 2023年10月から12月に開催した演奏会
- ミューズフェスティヴァル開催
- 大学令和5年度卒業式・修了式、令和6年度入学式
- 附属高等学校行事
- 附属各幼稚園 修了式・入園式

17　Campus Information
- 武蔵野音楽学園教育運営推進協力寄附金　ご寄附をいただいた方々
- コンクール入賞者等
- 武蔵野音楽大学同窓会　全国総会のお知らせ
- 2024年7月から12月開催の演奏会
- オープンキャンパス
- 中高生のためのステップアップ・レッスン
- 音楽指導者セミナー
- 2024年度 免許法認定講習
- 2024年度 大学・高校受験講習会

表紙の写真

本年4月に開催されたジャン＝カルロ・メノッティのオペラ『ヘルプ！ヘルプ！宇宙人が襲ってきた！』の3日間にわたる公演は、いずれも超満員となり、カーテンコールでは出演者に盛大な拍手が送られました。

学校法人 武蔵野音楽学園

江古田キャンパス　〒176-8521 東京都練馬区羽沢1丁目13-1　TEL. 03-3992-1121（代表）

入間キャンパス　〒358-8521 埼玉県入間市中神728　TEL. 04-2932-2111（代表）

パルナソス多摩　〒206-0033 東京都多摩市落合5-7-1　TEL. 042-389-0711（代表）

武蔵野音楽大学大学院 博士前期課程・博士後期課程
武蔵野音楽大学
武蔵野音楽大学別科
武蔵野音楽大学附属高等学校
武蔵野音楽大学第一幼稚園
武蔵野音楽大学第二幼稚園
武蔵野音楽大学武蔵野幼稚園
附属音楽教室 江古田・入間・多摩

武蔵野音楽大学ウェブサイト　https://www.musashino-music.ac.jp/

MUSASHINO for TOMORROW Vol.145

発行：2024年7月　学校法人 武蔵野音楽学園　通巻第145号